

第 24 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
施策調査専門委員会・県民フォーラムチーム合同検討会（第 1 回～第 3 回）
結果概要

1 日時

- 【第 1 回】平成 27 年 1 月 16 日（金）10：30～12：00
- 【第 2 回】平成 27 年 1 月 28 日（水）17：00～18：30
- 【第 3 回】平成 27 年 2 月 26 日（木）18：00～20：00

2 概要

第 1 回～第 3 回検討会では、第 24 回県民フォーラムの企画内容について検討した。概要は以下のとおり。

（1）県民フォーラム（3月）と評価ワークショップ（7月）の位置付けについて

○県民フォーラム（3月）

- ・これまでの取組みの成果を県民に理解してもらう場。
- ・論点整理をする場。

（質疑、意見交換の時間を多めにとって、一般の方から見た、関心がある部分、課題点などを拾って、評価ワークショップでの議論の材料とする。）

○評価ワークショップ（7月）

- ・3月での意見を踏まえて、今後の展開を議論する場

（2）県民フォーラム（3月）について

①内容について

- 一般税との関連を取り上げながら、水源税がどう生かされてきたのか、取組みの結果良かった点、課題点、そして今後はどうつなげるか、という流れにしたい。取組みを理解してもらうためにも、公募の県民参加者をもっと増やした方がいい
- 基調講演の前にそもそも神奈川県がどのような県なのか説明する際には、言葉だけでなく、映像もあると良い。
- フォーラムの基本的な趣旨は、今までの成果をアピールするとともに、課題の部分を明らかにし、それを施策後半にどうつなげるか。結局、今回のフォーラムは何だったのかとならないよう、シナリオをきちんと整理しておく。

②基調講演

- 神奈川県は森林、河川はどういうものか、という基本の説明があると良い。
- 水源環境の問題点と、これに対する水源環境保全・再生施策について、その中で水源税で行っている事業についての枠組みの全体像をわかってもらえるような説

明が先にあった方がいい。

③タイトル

○次のとおり決定した。

タイトル：「みんなで支えるかながわの森と水」

サブタイトル：～水源環境保全税による取組の検証～

④パネリスト

○パネリストはコーディネーターを含め6名とする

- ・コーディネーター 田中 充（環境政策関係、法政大学社会学部長）
- ・浅枝 隆（水関係、埼玉大学大学院理工学研究科教授）
- ・内野 ミドリ（森林関係、かながわ森林インストラクターの会）
- ・興梠 克久（森林関係、筑波大学生命環境系森林資源社会学研究室准教授）
- ・高橋 弘二（水関係、横須賀「水と環境」研究会代表）
- ・中村 道也（森林関係、丹沢自然保護協会理事長）

⑤パネルディスカッションのテーマ

○「かながわの水源環境保全・再生はどこまで進んだのか」に決定。

⑥アンケート

○選択肢の内容が事業として行っていることしかないが、一般の人にとっては、「喝水」等の方が関心があると思う。事業の枠を超えて、より一般の人向けに選択肢を作成した方が良い。

○属性の設問は必須。県民フォーラムを何で知ったか聞く設問、県民フォーラムの内容がどうだったか聞く設問は参加した後で答える設問なので、アンケートの一番最後にした方が良い。どういう人がきたか、どう感じて帰ったかがわかればまず第1段階の目的は達成。その上でどういうことに関心を持っているかを聞き、税金・事業について理解しているかを聞く。

⑦会場参加型討論について

○パネルディスカッション終了時には、とくに内容をまとめず、簡単に内容を振り返るコメントをし、会場参加型討論につなげる流れとする。

○事前質問は3テーマ別（森・水・施策）にリストにして配布資料にし、参加者と共有する。リストは主なご意見という程度。共有した上で、会場から追加で質問を受ける形にする。